

令和元年度 第2回 社会福祉施設・法人選考専門分科会議事要旨

- ・日時：令和元年 10 月 30 日（水）10:30～12:30
- ・場所：福祉局船場分室研修室
- ・出席者 石田委員、岩上委員、大仲委員、黒田委員、杉村委員、中川委員、平田委員、三田委員

1 議事について

【議案1】既設法人による特別養護老人ホームの移転建替

法人名：社会福祉法人恩賜財団済生会支部大阪府済生会

施設名：特別養護老人ホーム喜久寿苑

所在地：大阪市北区大淀南2丁目

・質疑

〈委員からの主な質問等・法人からの回答〉

1 介護職員の人材確保において困っていることはないのか。

→非常に困っている。地域により温度差があり、厳しい状況である。対策として、資格が無い方を非常勤で採用し資格を取得させて正社員として採用することや、外国人技能実習生の受け入れ、学生の採用等の新しい人材採用の手段を研究し、サービスが低下しないよう考えている。

2 食事の満足度が低いことの原因をどのように捉えているか。ユニット型にしたからといって解決するわけではないと思われるが。

→管理栄養士が中心となりデータを取り分析し、対策を行っている。

3 従来型からユニット型に移行することによって、認知症が進むことはないかどうかの調査結果を踏まえた上で本事業を計画しているのか。

→問題が共有化されていないので、今後、済生会大阪府支部の介護士会、栄養士会で研究を行っていききたい。

4 人材確保について全員常勤として採用することを考えているのか。

→当初、非常勤で募集していたところ応募が無かったため、常勤として採用する予定。

5 利用者の生活環境が大きく変わる際、職員の動線が非常に重要であると考え

ている。都市部の高層の建物になるということで、食事等の動線において効率性も踏まえた人の働き方が従来型と異なることについてどのように考えているか。

→・食事の動線に関して、調理は業務委託を予定しており、3階の厨房で作った食事を6～8階へ上げて各ユニットの職員がそのまま提供することとしている。

・リネン類に関して、おむつは7階まで業者が持ってくるようになっており、シーツは1階の倉庫に業者が管理して置くこととしているが、必要な時は業者が6～8階に持って上がるなど介護職員の動線になるべく無駄が無いように考えている。

6 職員の気持ちは利用者に伝わるものなので、職員が動きやすい設計を工夫してもらいたい。また、現在の施設において個別ケアを積み重ね定着させてから新しい施設に移行するなど、新型に変わった際もあまり大きな変化なく移行できるように考えられたい。

7 貴施設において取り組まれている地域における公益的な取組は何か。

→中津医療福祉センターと大阪府社会福祉協議会とが連携して生活困窮者レスキュー事業を行っているが、各々の施設に係る貢献については人員等の制約がある等、課題であり、時間をかけて実施するよう取り組んでいく。認知症高齢者の見守りをやっていきたい。

8 利用者へのケアの特徴は。

→利用者のライフスタイルに合った個室を設けている。利用者の立場に立って質の高い介護サービスを行い、生活感あふれるものにしたい。

9 高層階（6～8階）に位置しているが、職員の人数だけで、災害時に要介護度の高い利用者をどうやって避難させられるのか。防災計画は非常に簡素であり、命を守ることにしてもっと慎重に取り組まなければならない。これらの点を加味して計画を練り直していただきたい。

→避難を考慮した構造となるよう、設計会社、防災センターと相談して決めていきたい。中津医療センター全体共通の課題であり、当法人が経営する全国の51か所の特別養護老人ホームを調査し検討していきたい。

〈意見交換〉

・利用者目線での取組が必要。従来型からユニット型に移行した支部の施設もあ

ることから、その経験が活かされる必要がある。

- ・法人全体としてだけではなく、施設の特徴を活かしながら、施設所在地で地元と関わる地域における公益的な取組（地域貢献）を行うことが望ましい。
- ・設計図を見る限り職員が効率的に仕事ができる環境になっているとは思えない。例えば全室にトイレの設置が必要であるかどうかといった、現場で実際に介護等に当たる職員の目線を通して、職員の負担が少なく効率的に介護が行えるようなレイアウトであることが望まれる。

・結果 適格